第６回　柿田川を語る会　会議要旨

○開催日　令和７年１月 30 日(木)　　10：00 ～ 11：30
○会　場　清水町役場３階　大会議室
○出席者（委員）
・岩﨑　清悟 座長　(清水町みらい会議)
・中山　　勝 副座長(清水町行政改革推進委員会)
・漆畑　信昭 委員　(柿田川みどりのトラスト)
・押尾　市郎 委員　(柿田川自然保護の会)
・渡辺　敏彦 委員　(柿田川・東富士の地下水を守る連絡会)
・秋元　　稔 委員　(清水町区長会)
・久保田俊治 委員　(清水町商工会)
・半田　昭博 委員　(清水町教育委員会)
・武藤　　剛 委員　(清水小学校)
・小澤　徹也 委員　(清水小学校学校運営協議会)
・名倉　　達 委員　(清水町文化財保護審議会)
・久保田千明 委員　(清水町民生委員児童委員協議会)
・小川　侑男 委員　(清水町シニアクラブ連合会)
・村上　　榮 委員　(一般公募)
・山本　博保 委員　(一般公募)
・加藤　英明 委員　(静岡大学教育学部)
・川村結里子 委員　(三島 100 人カイギ)
・藤井さやか 委員　(一般社団法人いちご)
・辛嶋　　亨 委員　(沼津河川国道事務所)
・柳川　典之 委員　(静岡県(東部地域局))
○欠席者（委員）
・石垣　雅雄 委員　(柿田川湧水保全の会)
・木部　　一 委員　(清水町ゆうすい未来機構(わくら柿田川))
・清水　周一 委員　(Reborn City SHIMIZU)
・猪ノ原　恭 委員　(清水町子ども会育成連合会)
・渡邉喜久夫 委員　(一般公募)

○出席者（町当局）
・関町長、秋山副町長、杉田教育長、前川企画課長、木村産業観光課長、
大嶽社会教育課長、長島都市計画課長、事務局（都市計画課）

○岩﨑座長挨拶

この柿田川を語る会も一年を経過し、この間５回の会合を重ねてきた。この会を通じ、柿田川の立ち位置や今日に至るまでの関係者のご尽力等について、これまでの会議により共通の認識ができ、また、様々な立場から様々な思いが語られてきたと思う。町の誇りとも言うべき「柿田川」を将来にわたりどのようにして受け継いでいくのか。最後ですので、皆様の御意見や御議論をお聴きしたい。

議題　「受け継ぐべき町の誇り」としてのあり方について

① 自然遺産としての保全のあり方
② 保全活動の持続性確保のあり方
③ 親水機会の定常化
④ 自然遺産の魅力発信のあり方

座　長：今回でこの会議も最後となる。５回の話し合いの中で、「受け継ぐべき町の誇り」としてのあり方について、これまでの議論は、議題の４点に集約された意見であったと認識している。それぞれの内容については、お手許の資料にまとめてある。そこで、今回はまとめとして、皆様の特に関心の高い項目の今後のあり方について、お一人２～３分で御発言いただきたい。

〈委員の意見〉

・この会に参加し、改めて柿田川に対して関心が出てきた。
柿田川を柿田橋や湧き間の辺りから見たところ、自然はすばらしいと思ったが、手を加えていかないと保てないとも思った。柿田川みどりのトラストの方々が熱い情熱を注いでくれていることがわかった。せっかく良いものがあるので、子どもたちに水と触れあう機会をあげたい。

・去年 11 月に上高地に行ってきた。上高地も特別天然記念物に指定されており、外国人が多く訪れていた。柿田川も日本人だけでなく、外国人も来て楽しんでいただける所になったらよいと思った。自然は五感で感じるものだと思う。自然と人が共生して成功している所があるので、そこから関係者を招き、話を聞けば柿田川がよりよくなるのではないか。

・清水町は、昔から柿田川とともにあると痛感している。この会には、子どもたちが参加できなかったが、これから先は、子どもたちが柿田川をどう考えていくかが大事だと思う。そうした中で、児童・生徒が話し合う場が欲しいと思った。私は、子どもの頃、柿田川になじんできた世代であり、自由に入れる身近な川という印象であったが、今の子どもたちは違う印象だと思う。子どもたちが見る時に、ただ放置された自然ではきれいに感じないのではないか。これから先、子どもたちがどう思うかが大切だと思う。

・清水小学校では、来年度、3 年生以上の総合学習で柿田川に関する授業を行おうと思っている。教職員は数年で異動してしまうので、教材づくりなどについて皆さん

の力を借りたい。また、学校では、保護者が参加する行事の時に教材園を開放し好評を得ている。

子どもたち自身が柿田川についてどう思っているか知りたいと思う。子ども議会のようなもの、例えば「柿田川子どもサミット」などを実施してみたらどうか。

・４テーマのそれぞれが重要だと思う。継続的にこのような関わりを続けていくには、人材育成が重要である。何かしら町民が関われるような、何か人材確保の建設的な取り組みが必要だと思った。

・南小学校区の子どもたちは、柿田川について意外に興味がないように感じる。柿田川の水は、富士山の湧水で、丸池も同様であるが、南小学生は丸池から南小学校の方に流れている丸池川のことをどぶ川だと思っている子もいる。そこで、柿田川や湧水に興味を持たせるために歴史を利用したらどうかと思う。戦国時代にフォーカスして泉頭城や徳倉城などの話をすれば、子どもたちが興味を持つのではないか。

・この柿田川を美しく保つためには、町民のあらゆる層が意識を高めた保全活動が重要になってくると思う。今回参加した委員がそれぞれの立場で若い世代に受け継いでいくことが重要である。所属団体に持ち帰り、それぞれの立場で活動していけば広がっていくのではないか。

・柿田川を現状のままにしておくのでは、現在の環境を保てないと思う。今後も外来種駆除等を行うことが重要である。

・清水町の人であっても柿田川のことを知らない人もいるが、近年、外国人の来訪者は増えている。ビジターセンターは、旧図書館跡地にできないかと思った。

・大悟法利雄氏の柿田川讃歌がある。柿田川を見て美しいのは当然であるが、大悟法利雄氏の歌碑を設置してもらいたい。

・情報発信をいかに伝えるかが重要である。まず、ビジターセンターであるが、作って終わりではなく、運用の仕方などをしっかり考えなければならない。組み立てをしっかり行う必要がある。次に、情報発信であるが、情報が欲しい人にしっかり伝わる手立てが必要である。伝わるべき情報を伝えることができる仕組みと、関わりたい人が関われる仕組みが必要だと思う。

・情報がうまく伝わりきれていない面がある。良さや唯一無二であることが伝わっていない。ビジターセンターを作るなら、外来種駆除などへの参加の窓口等も分かりやすくすると同時に、熱量をもって運営し子どもたちが行きたいと思う場所にならなければいけないと思う。そこに親水のことなどがあり、子どもが行きたくなる場所になるとよい。

・一般的に人が集まると自然が破壊されると言われているが、逆に人が集まることにより、自然を守ることになるとよい。状況に応じて木を切る場合でも注意が必要である。例えば日当たりがよくなると外来種のアカミミガメが住みつくこともある。狩野川から外来種が来ることもあるので、保全を進めるには本線である狩野川の保全も必要となってくる。

・動植物の生活環境は、日々少しずつ変わっている。柿田川の良好な環境を守っていくには適切に人の手が入り、保全活動をしっかり継続的に行っていく必要がある。また担い手を確保するため、親水機会の定常化と保全活動を連動させて、親水を体験したら保全活動にも参加していくサイクルの仕組みがあるといい。ビジターセンターについては、設置や維持していくには財政的問題が考えられる。行政機関だけではなく、民間活力を取り入れたり、企業版ふるさと納税、クラウドファンディングなどを検討するのも良いのではないか。

・柿田川は、本県を代表する国指定天然記念物であり、より多くの皆様に保全活動も含めて知ってもらう必要がある。清水町という単位だけでは限界があるので、広域連携による情報発信にも力を入れるべきだと思う。例えば、ジオパークや沼津市、三島市等との連携はどうか。

・テーマ①では、貴重な自然の宝庫であり、町民に安らぎを与えてくれる自然を末永く保全していかなければならない。テーマ②は、これまで行政が協力し、実施されてきた。今後もこの形で継続していくのが良い。テーマ③は、絶滅危惧種等があるサンクチュアリであるため侵さない方がよい。子ども達には、人数を限定し、トラストで行っている安全に配慮した行事に参加してもらえばよい。テーマ④の魅力発信については、町のドローン映像が良いと思う。

・2つ強く思ったことがある。静岡県民が富士山に登らないように、町民が柿田川に行かないということを感じている。もう1つは、自然を知ってもらう活動を継続していかなければならないと強く思った。私は、他市に住んでいたのだが、清水町は人も環境も良く、住みやすいと感じた。それは、柿田川という大自然があるということで、そこが憩いの場であり、精神衛生上よいところである。
柿田川みどりのトラストは、50周年である。これを機会に、いろいろな人に知ってもらい、皆さんのいろいろな意見を取り入れていきたい。

・何でもやれると思えば、何とかなると思う。フィールドワークを行ってくれれば、自然が教えてくれるので、絶対に行動してもらいたい。

・将来を任せていく子どもたちに、柿田川をもっと知ってもらうには、町内の住民に対してどう啓発していくのか。情報発信をどうするのか。例えば、漆畑氏は最初一人で始めたとお話を聞いた。黒川温泉でも、1人の人が露天風呂などを作ってＰＲし、現在の一大観光地の礎を作った。そういう思いのある人のことを考え、継続していくことが重要である。子どもたちに柿田川讃歌のようなものを作ってもらって大切にする。情報発信については、狩野川流域で一緒になって、静岡遺産として発信していく。そういうことを実施しながら大切にしていく。そうすれば、未来永劫残るのではないか。

町　長：皆様から、６回にわたり本当に貴重なご意見、良い意見をいただいた。町の情報発信が弱い点は承知しているので、そこの形については努力して進めていきたい。ビジターセンターについては、イニシャルコストもランニングコスト

もかかるものであるので建物が本当に必要であるか今後考えていきたい。まとめでもあるようにバーチャルやVR等は活用していきたい。それを含めて今後の課題としていきたい。ふるさと納税やクラウドファンディングも参考としていきたい。保護と活用は相いれないことは承知しているので、町として何かしら皆様が納得できるような今後対応をしていきたい。柿田川自然再生計画の意見や皆様の意見を参考にしながら今後の保護や活用を行っていきたい。

〈その他の御意見等〉

・お知らせですが、３月の第４土曜日から外来種駆除が始まり、第２・第４土曜日に実施します。
　また、４月 29 日には富士山植樹があります。皆さんご参加ください。

・泉水源地の開放が 6 月の第 1 日曜日にありますので、是非参加してみてください。

座　長：最後にとりまとめを行いたいと思います。この資料はこれまでのご意見を事務局とともにまとめさせていただいたもので、記載されたことには、私個人の意見も入っています。しかし、この集約した資料には、子ども達に伝えることが入っていないと思いました。将来を担う子ども達に、親水だけでなく、知識を得、歴史を知ってもらうことが重要であると思います。中学生は外来種駆除に参加できますが、小学生以下の子どもたちに知ってもらうことも必要です。柿田川の教材が作られた場合に、各学校の共通の教材として広く活用していただけたらと思います。ビジターセンターについて最も求められるものは、柿田川の総合的な窓口としての機能です。ビジターセンターに行けば、柿田川に関するいろいろな情報がなんでも得られる。バーチャルやVRで柿田川に入らなくても親水体験もできる。こうした総合的な窓口が必要であると思います。財政面では、税金だけでなくクラウドファンディング等共感していただける方から広く募る方法もあります。今日に至る保全の歴史に加え、柿田川の水が、上水や工業用水として広域で大量に使われており、県東部地域の水源であることを知っていただくことも重要です。これが町の誇りとなり、また、保全に対する意識を高めていくことになると感じます。
　この会議をとおして、皆様が柿田川について、受け継ぐべき資産として考えられていることがよくわかりました。是非この会で話し合われたことが、実現できていければと思います。
　本日まで、長い間、御協力ありがとうございました。

〜〜〜